



武藏小金井駅の南口を出て目の前に立地する

HALL REPORT

DMG ダイヤモンドゲームズ

遊技環境を追求したスロット専門店

老舗法人が駅前好立地店舗を大改装

都内でホール2店舗を展開する富士産業(東京都小金井市)が11月27日、PS併設店だった『ダイヤモンドタワー館』(同)をパチスロ専門店『DMG ダイヤモンドゲームズ』にグランドリニューアルした。設置台数は328台。雁行形の島レイアウトが特徴だ。

東京都のほぼ中央に位置する小金井市は、およそ13万人が暮らすベッドタウンだ。主要駅である武蔵小金井駅では南口の再開発が2020年に完了し、北口でも25年からスタート。都市機能や住環境の整備が進んでいる。

市内に建つホールは3軒で、総台数は1274台(パチンコ558台、パチスロ716台)。富士産業が同駅の北口と南口の目の前で、1店舗ずつ構える。約60年の歴史をもつ北口の併設店(526台)が本店だ。

南口では再開発に伴って一時閉店したが、09年に竣工した複合ビル内で『ダイヤモンドタワー館』として再スタートを切った。駅改札から徒步30秒。地上25階、地下2階建てタワーマンション兼商業施設の地下1階フロアにあり、今回パチスロ専門



遊技機がジグザグと並ぶ新島



一度覚えれば手慣れるセルフカウンター



旧パチスロコーナーの台間はそのまま



駅から最寄りの出入口。LED照明が芸術的に灯る



川端支配人
A)

景品カウンターには、マースエンジニアリングのエヴォールスマートセルフ交換機「EVO 50」を2台設置した。画面モニターを操作するだけで、遊技客は自分で賞品交換と精算

店としてグランドリニューアルオーブンした。屋号変更を伴う今回の大改装について、川端昌幸支配人は次のように話す。

「1年以上前からパチスロ専門店への転換を構想していましたが、LT 3・0プラスの動きを見ていたので、結果的にタイミングが今になりました。リニューアルで目指したことは遊技環境の追求です」

それが最も表れている部分が、1メートルに及ぶ台間の広さだ。もともとパチスロ台を設置していたフロアでは、新しい島を建てる際に、遊技機の左側にゆとりのある収納スペースを設計。隣の台と奥行きに差を設ける雁行形のレイアウトにすることで、隣席からの視線を感じにくい環境に仕上げている。

「都内や埼玉の店舗をいくつも视察して、イメージを膨らませました。以前より120台減らしましたが、再来店率や遊技時間の拡大につながると考えています」

手持ちメダルや貯メダルで飲料などを交換できるように、エヴォールカードリーダー「EVO 3100」を接続した自販機も2台ある。遊技客の利便性が高まるだけでなく、運営側にも在庫管理で起きがちなヒューマンエラーを抑制できる。

「遊技機価格や人件費が高騰する中でお客様への還元率を維持するには、少数精鋭のスタッフで臨むほかありません。セルフカウンターにしたことで、スタッフの労働負担は軽減されますから、接客により集中できるようになりました」

グランドリニューアルで会員数は500人程度上積みされた。当面は来店取材などで新規層にアプローチしつつ、快適な遊技環境と接客で再来店につなげていく。

「マースさんの会員分析では、来店頻度の変化にもすぐに気づけます。地域に根差す当店が生まれ変わった様子を広くお伝えして、多くのお客様をお迎えしたいですね」

景品カウンターには、マースエンジニアリングのエヴォールスマートセルフ交換機「EVO 50」を2台設置した。画面モニターを操作するだけで、遊技客は自分で賞品交換と精算